

第三者評価結果（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 福祉総合評価評価機構

②評価調査者研修修了番号

SK2021272

SK2022031

③施設名等

名称：	浦上養育院
施設長氏名：	吉永 光子
定員：	34名
所在地(都道府県)：	長崎県
所在地(市町村以下)：	長崎市石神町14番48号
T E L：	095-844-4055
U R L：	https://www.ans.co.jp/u/urakamiyoikuin/
【施設の概要】	
開設年月日	1874/08/15
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人うみのほし会
職員数 常勤職員：	22名
職員数 非常勤職員：	7名
有資格職員の名称（ア）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	3名
有資格職員の名称（イ）	精神保健福祉士
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称（ウ）	保育士
上記有資格職員の人数：	14名
有資格職員の名称（エ）	公認心理士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（カ）	小学校教諭
上記有資格職員の人数：	2名
施設設備の概要（ア）居室数：	中舎制1、小舎制2、小規模グループケア1、分園型小規模グループケア1
施設設備の概要（イ）設備等：	グラウンド
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

■ 理念

「自分を愛するように隣人を愛しなさい」とのカトリックの愛の精神に基づき、聖母マリアに倣い、社会の必要に応え、人々にキリストの愛をもたらすよう努めます。

■ 基本方針

1. 家庭に代わる場として、子どもたち一人ひとりが十分に愛され、受け入れられていると感じることができるよう努める。
（子どもの声に耳を傾け、その思い、言葉、行いに暖かい理解を示す）
2. 心の傷を癒すための専門的治療（心理療法：カウンセリング他）
3. 健全なる社会人となる素地を築くための教育、学習の充実及び文化、芸術、スポーツ等の諸活動を通して、個性、可能性の伸長をはかる。
4. 自立支援の強化（食事作り、アルバイト体験、職場見学他）
5. ホーム構成は、少人数の家庭的規模を保ち、全体的には集団生活の利点：強調性、諸行事を通しての協力、助け合い等対人関係について学ぶよう支援する。
6. 家族再統合を目指し、親、親族との関係改善への支援。

⑤施設の特徴的な取組

- ・年に1回、保護者会を開催している。（コロナ禍のため3回中止にしたが、保護者の意向や施設に対する思い等は書面でいただいた）
- ・年度の始めに、定期的に来てくださるボランティアの方々の集いを実施している。今はコロナ禍のため集いは実施していないが、院内のミニ行事（夏のお楽しみ会）に招待した。
- ・保護者と会うことが難しいケースについては、タブレット等を使って交流ができています。
- ・法人において、うみのほし保育園の子育て支援事業たんぼ広場を週2～3回実施する中で、当院の心理士を派遣し母親の相談を受けるようにしている。（現在コロナ禍にあり未実施）

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2022/6/28
評価実施期間（イ）評価結果確定日	
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成30年度

⑦総評

【特に評価の高い点】

■ 子どもの人権擁護に関する積極的な取組みと姿勢

施設では、子どもを尊重した養育・支援に対する基本姿勢を「職員の心構え10か条」に明示し、理念と共に職員会議等で読み合わせを行い、理解を深めている。子どもの意見は、意見箱「ドラえもんのポケット」に投函があると迅速に回答している他、子ども一人ひとりに人権擁護に関するアンケートを実施している。収集した回答シートには職員がヒヤリングした際の状況や今後の支援への思いを丁寧に記録しており、子どもの人権擁護について真摯に取り組む姿が見てとれ、施設の特長といえる。

また、性教育についてプログラムを作成し実践すると共に、職員対象の研修計画も充実している。更に、子どものプライバシー保護に関するマニュアルを作成し、小学生の頃からプライベートゾーンについて学ぶ機会を設けており、日常的に子ども本人はもちろんのこと他者の権利を認めることについて指導している取組みは大いに評価できる。

■ 業務マニュアルの活用と評価、見直しのPDCAサイクルの稼働

施設の各ホームでは、独自の業務マニュアルを作成しており、生活する子どもの年齢やスケジュールに配慮し、時系列で細かく明示している。子どもを尊重した支援の姿勢や言葉掛けなどの記述もあり、丁寧に作成していることが窺える。更に、本業務マニュアルは各ホームで自主的に見直す仕組みが確立しており、定期的に見直しを行い、養育・支援に活用している。

それぞれの業務マニュアルを実践に活かし、更に評価し見直す仕組みが確立しており、PDCAサイクルが稼働していることが見てとれ、特筆すべき点である。

■ リービングケア、アフターケアへの真摯な取組み

退所を控えた子どもには、リービングケアとして離れの部屋を準備しており、1ヶ月単独で生活する中で、本人が困ったり迷ったりした際に職員がサポートし、自立に向けて支援している。更に、退所後に不安がある場合は退所時期を延長する等、子どもの状況に応じて柔軟に対応している。

アフターケアについては、担当職員を設置している。退所した子どもとSNS等で繋がりを維持し、出張時等を利用して面会の機会を確保したり、時間外での対応も含め丁寧に支援しており、施設を離れた後もきめ細かいケアを行っていることが確認でき、特筆すべき点といえる。

施設では、退所後も施設の行事に多くの卒院生が自ら集っており、職員との信頼関係やケアの充実ぶりを物語っている。入所時期だけでなく、自立して生きていけるようにサポートしていることが、退所後に集う子どもたちの様子から効果があることが見てとれ、全職員が児童養護施設の本来の意義を理解し、養育支援に努めていることは施設の特長といえる。

【改善が求められる点】

■ 中・長期計画の策定

中・長期的ビジョンは「施設の小規模かつ地域分散化に向けた計画」として作成し、国の児童養護施設の将来像を把握し、本施設として、今後の見込みと実績の数値化による比較検討を行っている。ただし、理事会での公表に留まり、職員への公表はこれからである。

また、施設のの小規模化・地域分散化以外の中・長期的目標も今後の取組みとなっている。単年度計画は細かく立案しているため、中・長期計画は明文化する段階と思われる。

施設として、単年度計画と連動した3年先、5年先の中・長期的な目標を明確化し、職員と情報を共有して事業を推進する仕組みづくりに期待したい。

■ 業務の実効性を高めると共に情報共有の仕組み確立のためのICT化の推進

各ホームは職員の作業負担を改善すると共に業務の実効性を高めるために、パソコンの増設や以前使用していた連絡網を新しくSNSを活用したLINEWorksに移行するなど取り組んでいることがわかる。また、毎年、職員アンケートを実施し、業務改善に繋がる意見の抽出に努めている。

ただし、現在は全施設のICT活用による情報共有の仕組みが確立していない。将来的には小規模グループが複数個所に設置予定であり、施設全体で情報共有することが必要になることは予見できる。

今後、ICT化を推進し、情報共有の仕組みを確立すると共に職員の業務の実効性を高め、更なる養育支援の向上に繋がることに期待したい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

子どもの人権擁護やリービングケア及びアフターケア等、子どもに関しての職員の取り組みを評価していただいたことは、今後の励みになりますし大変うれしく思います。

当施設の基本方針の一つに～子どもたちが、十分に愛され、受け入れられていると感じることが出来るよう努める～とあるように、これからも子どもたちの声に、耳と心を傾けながら日々の営みを積み上げていきたいと思えます。

改善が求められる点として、中・長期計画の策定があげられました。施設の単年度計画は立案されているので、これを明文化していく作業に取り組みたいです。

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。 <input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	a ○ ○ ○ ○ ○ ○
【コメント】 理念と基本方針を適切に明文化しており、パンフレットとホームページに掲載していることが確認できる。施設長は職員会議時に理念の一文をテーマに話し、職員が理念の理解を深めるよう努めている。 今年度は、当該法人理事長が職員への個別面談を行っており、職員が理念をどのように意識して業務に赴いているか確認する等、組織として理念の浸透を図っていることは特筆すべき点である。 職員は子どもへ関わる際に理念を絡めて話し、子どもへの理念の周知を心掛けており、施設長は保護者会の際に、保護者へ向けてパワーポイントを用いて説明する等、子どもや保護者に向けて理念の理解を促す姿勢は高く評価できる。	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	b ○ ○ ○ ○
【コメント】 施設長は社会福祉事業の動向について、児童相談所が公開するデータや研修会を通じて把握しており、更に職員に向けて新聞記事等を紹介する等、職員にも周知している。 特に施設長は、九州児童養護施設連絡協議会でシンポジストや、長崎県福祉保健審議会児童福祉専門分科会子どもの権利擁護・措置・検証部会で部会長を務めており、これらの会合を通じて地域の動向を把握している。尚、それらの情報について経営計画への反映は確認できなかった。今後、経営状況の把握と経営計画に反映するよう取り組むことに期待したい。	

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【コメント】

現在、国や県が児童養護施設の小規模化・地域分散化を推進する計画があり、当施設でもこれらに沿って整備方針を10年計画で定めている。この経営課題は理事会にも諮っている。

人材の確保が最大の目標で、ハローワークへ求人を出し、職員会議で職員の周囲に働きかけを行うよう協力を求める等、具体的に動いていることが見てとれる。

小規模化・地域分散化以外の課題の明確化はこれからであるため、今後明確化すると共に具体的な策を立案し実行することが求められる。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【コメント】

中・長期的ビジョンは「施設の小規模かつ地域分散化に向けた計画」として作成し、国の児童養護施設の将来像を把握し、本施設として今後の見込みと実績の数値化による比較検討を行っている。ただし、計画は理事会での公表に留まっており、職員への公表はこれからである。

更に、施設の小規模化・地域分散化以外の目標設定も今後の取組みとなっている。施設長が描く施設の職員育成、地域交流などの構想は明確であるため、計画は明文化する段階と思われる。

施設としての3年、5年先の中・長期的な目標を明確化し、職員と情報を共有して事業を推進する仕組みづくりに期待したい。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【コメント】

単年度の事業計画は、主任が骨子を作成し、職員面接や職員会議の際に現場の意見を聞き取り反映している。単年度計画は実行すべき目標を具体的に記しており、数値化・時系列化すると共に予算とも連動し、実行可能な計画であることが確認できる。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

事業計画は、職員会議等で職員の現場の声を聞き取り、計画に反映している。職員計画については、職員面談時に希望を聞くと同時に、施設が職員に求めるものも伝えている。
尚、計画の作成や実施状況の把握は幹部職員で行っているものの、組織全体として取り組み評価する仕組みは確認できなかった。
今後は計画の作成と評価について、施設として組織的に取り組む仕組みづくりが求められる。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

事業計画の中の行事計画については、玄関のカレンダーで掲示しており、子どもや来院した保護者が確認できる。ただし、行事以外の計画周知は十分ではなく、保護者会にて保護者に子どもたちの活動内容を説明するに留まっている。
児童養護施設の特徴から、全ての子どもや保護者を対象とすることは困難であるが、今後予定している小規模グループ化等、事業計画の一旦を子どもや保護者に伝えることについて、まずは検討することに期待したい。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1)	質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【コメント】

月1回の支援者会議の際に、子どもの支援に対する見直しを行っている。見直しの際、新たな意見は記録に赤で記入することで、進捗の度合いを明確化していることが確認できる。個別の自立支援計画については、見直しの都度、主任・施設長も目を通し適宜指導やアドバイスを行っている。
また、各ホームで独自に作成している業務マニュアルの改定を定期的に行っていることが書面から見てとれ、支援の質の向上に向けた継続的な取組みであることがわかる。
一方、自己評価や第三者評価の結果を基にした分析・検討する場は設けられていない。今後は、毎年度実施している職員の自己評価や3年に一度の第三者評価の結果を基に、施設として分析・検討の場を創出し、更なる質の向上に役立てることに期待したい。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【コメント】

施設では、第三者評価の結果報告書を職員が閲覧できるよう会議室に設置している。これまでに明確になった改善課題の一つであるマニュアルの改定について、継続して実施していることが確認できる。
 マニュアルはヒヤリハット報告書を参考に、問題が起こる前に見直すよう心掛けている。見直した部分については、小学生にはマニュアルや絵本を使いながら思いを伝え、中高生には直接話し合える場を確保して伝えている。
 第三者評価の結果にはマニュアル以外にも改善点はあるものの、施設としてマニュアルを課題と捉え、全職員が参加して改善し続けていることは優れているといえる。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

施設長の役割は、職務分担表において明確に表示しており、職員会議や支援者会議においても周知している。また、小学校区の広報誌において、施設長としての意見表明を積極的に行っている。
 ただし、施設長不在時の権限委譲は主任が担っていることは職員も了解しているものの、職務分担表には明記されてない。施設長の権限委譲は有事の際も想定されるため、職務分担表に記載して更に施設長の役割と責任を明確化することに期待したい。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

施設長は、遵守すべき法令等の理解を深めるために、研修会や会合に積極的に参加し、情報収集に努めており、得た情報を職員会議にて職員と共有している。長崎県の職員に来院してもらい、言葉や身体的暴力、被措置児童虐待防止法等に関する研修会を開催しており、ハラスメントや飲酒運転等の労務に関する法令については、顧問である社会保険労務士を招いて研修会を開催している。
 施設長が法令に関する知識の習得と職員の理解を積極的に促している点が確認でき、優れた点である。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

施設長は支援者会議に積極的に参加し、子ども一人ひとりの状況把握に努めると共に意見も表明し、自ら子どもと話す機会を設け、養育・支援の質の向上を目指している。また、施設として長崎県によるリーダー研修には対象となる職員が受講しており、職員の質の向上に努めている。

毎月、個々の自立支援計画を施設長に提出しており、確認し記載が不十分な場合は職員の考えや悩みを聞き取り、指導やアドバイスを行っている。施設長は、入所している子ども一人ひとりの養育支援について、基本となる自立支援計画が機能するよう質の向上に指導力を発揮していることが確認でき、高く評価できる。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

各ホームは職員の作業負担を改善すると共に業務の実効性を高めるために、パソコンの増設や以前使用していた連絡網を新しくSNSを活用したLINEWorksに移行するなど取り組んでいることがわかる。また、毎年、職員アンケートを実施し、業務改善に繋がる意見の抽出に努めている。

ただし、現在はマキホームと他のホーム間のICT活用による情報共有の仕組みが確立していない。将来的には小規模グループが複数個所に設置予定であり、施設全体で情報共有することが必要になることは予見できる。

今後、ICT化を推進し、情報共有の仕組みを確立すると共に職員の業務の実効性を高め、更なる養育支援の向上に繋がることに期待したい。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○
【コメント】		
施設運営に必要な人材や小規模化に向けた人員体制の方針は明確である。現在、職員の欠員があり、各所に募集しているものの未だ補充できていない状況にある。欠員の出たホームでは退職理由等を検討し、職員定着に向けて取り組んでいる。職員が一人で悩み退職することのないよう、公認心理士がスーパーバイザーとして職員の悩みを聞き取りアドバイスすると共に重要な課題は主任・施設長に報告しており、主任・施設長は内容を精査し対応している。施設長は、理事会にて評議員等に人員確保を依頼するなど積極的に取り組み、人員補充に努めていることが確認できる。		
②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○
【コメント】		
倫理綱領や行動規範に「期待する職員像」を明確にしている。人事院勧告の規定に基づき、当該法人で策定した規定に準じ人事基準を定めており、就業規則と共に職員が閲覧できるよう配し、周知している。また、施設長は職員一人ひとりの処遇水準について検討している他、職員の意向・意見を聞き取り、人員配置の際の参考にするなど、取り組んでいることが見てとれる。		

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

施設では職員の就業状況を把握しており、本人が希望する有給休暇はシフト編成に反映して応じている。福利厚生としてコロナ禍前までは、新人職員の歓迎会、忘年会を行っており、施設長はコロナ収束後には再開したいと考えている。施設では産前産後休業、育児休業等の取得に取り組んでいる。
 心理士が職員のスーパーバイザーとして個別に面談している他、外部の相談窓口としてメンタルヘルスケアの企業のチラシを掲示していることが確認できる。施設長も職員との個別面談を行い、働きやすい職場環境となるよう検討し取り組んでいる。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

施設長は、毎年6、7月に全職員の個別面談を行っている。毎年度、目標等を聞き取っているが、今年度は視点を改めて職員の仕事上の不安や改善してほしい点等を聞き取っている。
 そのため、個別の目標設定を行う個別面談は次年度に予定しており、目標についての中間面接や進捗状況の確認等も次年度以降の取組みとなる。あえて目標設定を基軸としていない職員一人ひとりの育成に向けた取組みを施設長が必要と考えて行っていることが理解できる。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

施設では、職員本人の希望する研修が受講できるようシフトを作成し支援している。また、職員の専門技術、専門資格に関する研修は、施設長が本人に受講するよう勤めている。ここ数年はコロナ禍のため研修は中止やオンラインと変化している。今年度から研修会場に向くこともできており、学ぶ機会を確保している。受講後は研修報告書を回覧し閲覧した職員は確認のサイン、押印するルールがある。受講した研修内容は毎回評価し、次年度の受講者を検討し受講する職員を決定している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

施設では、職員の資格取得状況等を把握しており、新人職員には数年勤務している職員がOJTを行っている。年間の研修計画として外部研修は階層別、職種別、テーマ別等に分別しており、該当する職員が受講している。公認心理士が職員のスーパーバイザーとして面談しており、スーパービジョン体制を確立していることがわかる。施設長は、新人職員の定着が難しく、これまでの指導体制が適切だったか課題と考えている。今後の検討、取り組みが望まれる。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

施設では大学等からの実習依頼に対応しており、実習プログラムは学校から届いているものに沿っている。実習日程が決定した後、実習生に対してオリエンテーションを行っており、各ホームに実習指導者を設定し体制を整えている。実習指導の責任者は「児童養護施設とは」から説明し実習生が配慮、留意点を確認し理解してから実習に入っている。更に、施設では実習生が実習後の目指す姿を設定し、3つのステップにて目標を定め実習を開始しており、実習の目指すべき姿として特筆すべき点である。
また、大学主催の実習指導者研修に、施設の実習指導者は講師として講義している。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

第三者評価結果は、全国社会福祉協議会（以降、全社協）やワムネットのサイトに掲載しており、財務諸表も確認できる。現在、ホームページを刷新すべく業者と打ち合わせ中である。施設の理念はホームページやパンフレットに掲載しており、苦情解決の流れは玄関に掲示すると共に今後はホームページにも掲載予定である。
また、施設長は地域の子ども育成連合会の広報誌に寄稿し、施設の成り立ちや基本的な生活習慣について等をわかりやすく説明しており、運営の透明性を確保するための情報公開の取組が確認できる。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

当該法人が定める経理規定に基づき、経理や取引等のルールを職員に周知している。職員の購入希望等については検討し、経理規程に沿って施設長が決済する他、理事会にかけて決定している。また、工事など経理規定で定める取引価格に基づき相見積を取るなど適切な処理が確認できる。
今回、ホームページ更新にかかる費用については施設長が理事会にて説明し承認を得ている。契約している税理士事務所の監査を受け指摘事項等に基づき経営改善に繋げている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○
【コメント】		
<p>施設は倫理綱領に地域との関わり方について基本的な考え方を明示している。自治会の子ども会が行うクリスマス会やラジオ体操に施設の子どもたちが参加する他、敬老の日子どもが作った贈り物を自治会長に預けて届けている。</p> <p>施設で行う夏祭りでは地域にチラシを配布し、商店等にポスターを掲示している。コロナ禍前のクリスマス会には学校の先生、支援を受けている関係団体、ボランティア、自治会長を招待していた。コロナ収束後は、再開したいと考えている。施設では、職員だけでなく子どもたちも買い物や理美容室は近隣を利用している。学校の友人が遊びにくることがあり、ゲームするスペースとして確保していたクッキングルームはコロナ禍で食堂として使用しているため使用できないため、別の場所で遊べるよう工夫している等、子どもたちと地域との交流を広げる取組みは施設の特長といえる。</p>		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○
【コメント】		
<p>施設ではボランティア受入れについて、ここ数年コロナ禍の状況を見ながら活動を継続している。学生ボランティアは、平日の夕方から就寝まで子どもと関わっている。社会人ボランティアによるピアノ教室、幼児対象の英語教室だけでなく、本人の希望に沿ってバイオリンを習っている子どももいる。中学生向けの数学を学校教諭等が教えている。</p> <p>施設はボランティア向けの説明書を提示して説明し、本人が守秘義務の誓約書を提出している。一年に一度、ボランティアの集いを開き、施設長がボランティアにお願いしたいことを話すと共に互いのコミュニケーションを図る機会となっている。夏のお楽しみ会には声を掛け参加を促し、子どもたちやボランティア同士が交流している。</p>		

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

施設で必要な学校等の関係機関・団体はリスト化し活用できるよう電話の傍や壁面に掲示している。学校のPTA活動は学校の配慮で役員等は免除されているものの、職員が関わっており子どもの様子を情報共有している。施設長は、市が主催する要保護児童対策地域協議会、親子支援ネットワーク地域協議会に出席しており、子どもに関係する機関の代表が集い会議や研修を行っている。施設では代表者会議に施設長が出席し、実務者会議、個別ケース会議は主任が出席するよう分担し、関係機関との連携を密にしており、必要な情報は職員に周知を図っている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○

【コメント】

当該法人内の保育園が週2、3回園庭開放し、地域の未就学児の家庭に向けて、子育て支援を行う体制を整えている。ただし、コロナ禍で未実施である。施設は子育て支援に専門性が必要と考え、施設の心理士を派遣することとしている。施設長は要保護児童対策地域協議会、親子支援ネットワーク地域協議会の他、地域の子ども育成連合会にも関わると共に生計困難者レスキュー事業にも参画し、地域の福祉ニーズを把握するよう努めていることが見てとれる。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

施設は、長崎県社会福祉協議会の生計困難者レスキュー事業に参画しており、要請に沿って施設の駐車場を提供する等協力している。また、地域にて被虐待の疑いがある児童について、施設に遊びに訪れた際にはおやつを提供しながら保育士が関わり、各関係機関との連携して取り組んでいる。また、地域の防災対策として、近隣の高齢者に向けて台風時等には施設に避難していいことを伝えており、公益的な事業・活動が確認できる。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	<p>28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。</p>	a ○ ○ ○ ○ ○
【コメント】		
<p>施設では、子どもを尊重した養育・支援に対する基本姿勢を「職員の心構え10か条」に明示し、理念と共に職員会議等で読み合わせを行い、理解を深めている。子どもの意見は、意見箱「ドラえもんのポケット」に投函があると迅速に回答している他、子ども一人ひとりに人権擁護に関するアンケートを実施している。収集した回答シートには職員がヒヤリングした際の状況や今後の支援への思いを丁寧に記録しており、子どもの人権擁護について真摯に取り組む姿が見てとれ、施設の特長といえる。</p> <p>また、性教育についてプログラムを作成し実践すると共に、職員対象の研修計画も充実している。更に、子どものプライバシー保護に関するマニュアルを作成し、小学生からプライベートゾーンについて学ぶ機会を設けており、日常的に子ども本人はもちろんのこと他人の権利を認めることについて指導している取組みは大いに評価できる。</p>		
②	<p>29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。</p>	a ○ ○ ○ ○
【コメント】		
<p>子どものプライバシーに関しては「子どものプライバシー保護規定マニュアル」を作成しており、朝礼で読み合わせを行い、職員への浸透に努めている。基本的に居室は個室であるが、二人部屋もあり、その場合はタンスで仕切ったり、子どもが自ら段ボールで製作した小部屋を置いている。職員は、安全に配慮しながら子どもが独りで過ごせる空間を確保できるよう心掛けている。毎年度、予算を組み個室を増設しており、高校生には個室を提供している。</p> <p>小学生の頃から、空間も自分のプライベートエリアと認識できるようサポートすると共に、他人の布団は踏まない、入室時は必ずノックする等、一般家庭での躰に相当する指導は、子どもが将来退所して生きていく上で大切な学びであり、丁寧に行っていることは特筆すべき点である。</p>		

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

施設では、入所前の子どもや保護者の希望に沿って、見学を受け入れたり口頭にて施設での生活等について説明している。

また、ホームステイやショートステイ、トワイライトステイも行っており、行政に相談し利用できることを説明している。更に、児童相談所を通じて一時保護を行う場合は、特殊事情に配慮しながら説明している。保護者向けの資料として「入所にあたってのお願い」を準備しており、規則等について理解を図るための配慮、工夫が確認できる。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

入所時には「入所にあたってのお願い」という文書を使用し、子どもと保護者に入所後の生活について詳細に説明しており、意思決定が困難な子どもや保護者には、主任がソーシャルワーカーとして説明している。

施設では、「目標とする児童像」をパンフレットに掲げており、家族と一緒に育てていくことを目標としている。ただし、施設長はこの目標が保護者に十分伝わっていないと認識している。今後の取組みに期待したい。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

措置変更の場合は、児童相談所との打ち合わせ後に、保護者にこれまでのいきさつを説明すると共に変更内容を伝えている。措置変更先への情報提供については、内部で引き継ぎ内容を記録し、決まった書式はないものの相手先が必要と思われる情報を随時提供している。

このように施設として、担当者を定め退所後のサポートを充実させている点は大いに評価できる。

		第三者 評価結果
(3)	子どもの満足の向上に努めている。	
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○
【コメント】		
<p>子どもの希望については、児童会にて聞き取りを行っている。また、人権擁護に関するアンケートと性に関する聞き取りをそれぞれ年2回実施することで、子どもの状況と希望の把握に努めている。</p> <p>子どもの希望で、中庭で育てた野菜を使ってピザを作った事例があり、子どもの満足度を高めようとする施設の取組みが確認できる。</p> <p>これまで子どもの満足度を調査する取組みは行っていないが、今回本項目の自己評価にて満足度の調査が必要であると考え、取り組むよう予定しているとのことである。定期的に調査を実施し、更なる支援の質の向上に役立てることに期待したい。</p>		
(4)	子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。	
①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
【コメント】		
<p>苦情を把握する仕組みとして「ドラえもののポケット」という意見箱を設置しており、他者の目を気にせず意見を入れることができるよう配慮している他、正面玄関には保護者向けの意見箱を設置している。</p> <p>苦情を把握した際は、施設長、主任、職員が共有し検討して本人にフィードバックすると共に、苦情解決ファイルに記録しており、苦情解決の仕組みが確立していることが確認できる。</p> <p>公開については、苦情が無かった旨を事業報告書に記載しており、適切に対応している。</p>		

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

子ども向けの意見箱「ドラえもののポケット」には、どんなことでも投函することができ、秘密は守られる点を説明している。子どもが日常生活の中で職員に話し難いと判断した場合は、多目的室にて周囲の目を気にせず相談できる環境を整えている。

また、施設以外の外部機関にも直接相談してよい旨を子どもに伝えており、外部機関に伝える手段として手紙やメール、電話等の方法があると説明している。電話機は職員室の中にあるため、高校生以外の携帯電話を所持していない子どもが電話を使って外部に相談したいと思った時に、使いづらいことが想像できる。外部に相談したい子どもの立場に立ち、改善策を検討することを期待したい。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

職員は、子どもの相談や意見を日々の生活の中だけでなく、児童会での聞き取りや人権擁護に関するアンケートの記述からも把握しており、職員間で共有する仕組みはできていることが見てとれる。一方、表出した子どもの相談や意見を記録する方法や手順を定めた苦情相談対応マニュアルの整備はこれからである。

今後はマニュアルを整備し、手順や内容につき定期的な見直しを行うことが望まれる。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

施設では事故防止委員会を設置している。委員は職員会議にてリスクマネジメントのひとつとしてヒヤリハットの記入を呼び掛けている。今年度から外部講師を招き、事故防止委員会の委員が数回学んでおり、職員が学ぶ機会を作ることが必要であるとして、リスクマネジメントについて研修を予定している。

収集したヒヤリハットは支援者会議で報告し、今後の対策を検討している。ただし、ヒヤリハットと事故の分別が曖昧であり、更に収集の意義についての理解を促す取組みも今後の課題である。加えて記入様式にも工夫が必要と考えられる。今後の取組みに期待したい。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

施設では新型コロナ感染はこれまでに発生していない。感染症予防として手洗いうがいの励行、施設内の消毒を徹底すると共に換気にも気を付けている。コロナに限らず、児童会にて衛生について職員が説明している。インフルエンザ感染者は、食堂に入らないよう別の場所で食事を取るよう工夫し感染予防に努めている。更に、新型コロナが発生した場合は、別棟にて静養するよう環境、体制を整えており、感染症予防の徹底と発生時を想定した子どもの安全確保のための環境や体制を整えている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

施設では災害時対応職員を配置している。備蓄食等は厨房職員が管理しており、消費期限が迫ると食事に使っている。以前は、非常持ち出し袋を完備していたものの老朽化し、現在新しく整備するよう計画している。台風時は就寝の場所を考慮する等、子どもの安全確保に努めている。施設の事業継続計画(BCP)の作成はこれからである。発災時においても養育・支援が継続できるよう事業継続計画の作成を急ぐと共に計画に沿った対策や訓練の実施も待たれる。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

施設の各ホームで業務マニュアルを作成していることが確認できる。それぞれのホームでは生活する子どもの年齢やスケジュールに配慮し起床から就寝まで時系列で勤務のシフトごとに行うことを細かく明示している。また、子どもを尊重した支援の姿勢や言葉掛けなどの記述もあり、丁寧に作成していることが見てとれる。更に、機会があるごとにマニュアルと事実が適合しているかを見直しており業務マニュアル、養育・支援に役立っていることは特筆すべき点である。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

各ホームでは業務マニュアルと日常の業務を比較し、見直している。各ホームで自主的に見直す機会を作っており仕組みが確立しているといえる。ホームごとに子どもの性別、年齢等が異なるため、職員はそれぞれに合ったマニュアルとなるよう工夫している。必要に応じて見直していることが、書面の改定日にて確認できる。このような丁寧な見直しは優れているといえる。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

子ども一人ひとりのアセスメントは、これまで担当職員が行っていたが、検討する際は複数人が望ましいとして、ホーム職員が主となり検討する場を設けている。
 あらましの骨組みを作り、本人にヒヤリングした内容を反映した児童自立支援計画書を作成し、支援者会議にて、更に課題や強みを抽出し計画書を完成している。
 施設では、毎年度、複数の大学から外部講師を招き、職員の学びの場を確保しており、支援の基本となる自立支援計画の策定の質の向上に努めていることは高く評価できる。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

施設では、年に一回全ての子どもの自立支援計画を見直す機会を設けている。一年間の成長等を反映し本人に適した計画に繋げている。特に変更が必要な時には、ホーム会議で検討して変更し、育成記録に変更を記入し、施設長に提出しており、評価・見直しの手順に沿って行っていることがわかる。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

子どもの身体状況や生活状況等は統一した様式に記録している。日常的には引き継ぎノートに子どもたちの様子を記し、その後所定の様式に記録している。

通常業務の中では記録にかかる時間が負担となるため、施設では記録にかかる時間を確保した勤務シフトがあり、職員が記録に専念できるよう工夫していることが見てとれる。記録はサーバーに保存しており、分園以外は各ホームで閲覧可能である。

ただし、施設全体でのネットワークシステムは未整備であり、手書きした後にパソコンに入力するという職員の業務負担も課題と思われる。情報共有の仕組みについて検討・取組みが待たれる。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

記録管理の責任者は施設長である。

子どもの記録の保管、廃棄、情報の提供に関する文書管理規定を定めていると共に法人の個人情報保護規定、施設での子どものプライバシー保護規定が確認できる。また、個別のフェイスシートや育成記録の取り扱いを定めている。

子どもには、本人宛の封書は本人が開封することを伝えており、職員は厳守している。施設では、携帯電話に関する誓約書を定め、親権者及び保証人と本人が記名して提出している。

内容評価基準（24項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
<p>① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。</p>	<p>a</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
<p>【コメント】</p> <p>施設では、子ども一人ひとりに人権擁護に関するアンケートを実施している。収集した回答シートには職員がヒヤリングした際の状況や今後の支援への思いを丁寧に記録しており、子どもの人権擁護について真摯に取り組む姿が見てとれ、施設の特長といえる。</p> <p>職員は子どもの権利擁護について権利ノートを使って子どもたちに説明すると共に、年1回の児童会で主任がわかりやすく説明している他、権利擁護委員会が年2回ミーティングを開いており、ミーティング後はホーム毎に話し合い、意見交換を行う仕組みがある。</p> <p>その他、職員に向けて長崎県こども家庭課の職員を招き、人権擁護や虐待防止に関する研修を行っており、子ども・職員への子どもの権利擁護について、意識を高めるための多様な取組みとその姿勢は、特筆すべき点といえる。</p>	
<p>(2) 権利について理解を促す取組</p> <p>① A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりがかかけがえない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。</p> <p><input type="checkbox"/>年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。</p>	<p>b</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
<p>【コメント】</p> <p>職員は子どもに対し、権利ノートを使って権利について説明を行い、一人ひとりが大切な存在であることを伝えられている。発達年齢に配慮し、性教育の機会などを通して一人ひとりに聞き取りを行い、自己肯定感を育むよう指導しており、それぞれに個別対応の時間を確保するよう努めている。特に自分だけでなく相手の権利擁護の観点から「発言に対して相手がどう思うか」を一緒に考え、わかりやすい言葉や事例等工夫して、自他の権利擁護について理解できるよう支援している。</p>	

(3) 生い立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生い立ちを振り返る取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生い立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

子どもの入所前の生い立ちについては、乳児院や保育園、児童相談所から情報を得ており、入所後の成長の記録は、担当の職員が作成している。子どもごとに個別のアルバムを作成し、子どもと一緒に見る時間を確保している。年齢が低い子どもには、理解度に配慮しながら伝えている様子が見てとれる。
本人の生い立ちについて伝えた後のフォローについては、担当職員が行うとともに、ホームでは様子を見守りながら職員間で情報を共有している。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

子どもに対する不適切なかかわりについては、朝礼時に虐待対応ガイドラインの読み合わせを行い職員間で共有しており、職員会議時には施設長が就業規則の内容と共に、万一発生した場合の組織としての対応策を説明している。
虐待の内容については職員研修を行っている。子どもに対しては、不適切なかかわりとはどういうものかを児童会で説明する他、年長児については個別に説明している。また、担当以外の職員にも相談できる旨を本人に伝えており、防止と早期発見に取り組む姿勢が見てとれる。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

施設では、子どもの入所時は、入所以前の生活から移行時に生じる不安の軽減が第一と考えている。荷物は職員と一緒に収納し、館内を案内した後身の回りの品物を一緒に購入するために出掛けており、子ども本人が温かく迎えてもらっていると実感し、施設で生活することを受入れ安らぐことができるよう配慮している。
 子どもの退所時には、パーマネンシー保障を十分理解した上で、リービングケアに繋いでおり、児童相談所等の関係機関との連絡も十分行っている。

②	A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○	

【コメント】

退所を控えた子どもには、リービングケアとして離れの部屋を準備しており、1ヶ月単独で生活する中で、本人が困ったり迷ったりした際に職員がサポートし、自立に向けて支援している。更に、退所後に不安がある場合は退所時期を延長する等、子どもの状況に応じて柔軟に対応している。
 アフターケアについては、担当職員を設置している。退所した子どもとSNS等で繋がりを維持し、出張時等を利用して面会の機会を確保したり、時間外での対応も含め丁寧に支援しており、施設を離れた後もきめ細かいケアを行っていることが確認でき、特筆すべき点といえる。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本

①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起きているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○

【コメント】

職員は子どもについて、ケース会議や自立支援会議を通じて成育歴を理解し、言動の背景の把握に努めている。子どもが発する気になる言動については、その内容を精査し、重い言葉は「私は傷ついた」ということを明確に伝えている。言動の内容は職員間で共有し、必要に応じて職員を交代して対応している。
 施設では、子どもの悩みや苦しみから表出する感情や言動の根源を探り、一人ひとりの子どもを理解するためにさまざまな取組みや工夫があることが見てとれ、感情的になる子どもが少ないという事実がそのことを証明しており、特長である。

②	A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○

【コメント】

職員は子どもとの日々の関わりの中で、常に基本的欲求が充足できるよう考えており、本人の希望を聞き取り養育・支援している。生活のルールは児童会で子どもの意思を尊重して決定している。また、クラブ活動やアルバイトなど子どもの生活時間を考慮し、帰設した際には声を掛けて労い、安心して生活できるよう配慮している。
 小学生と高校生が同室で生活しているケースでは、小学生が夜に目覚めた時には高校生が見守っており、小学生が安心感を得ていることがわかる。また、職員も声掛けするなど就寝までの支援を行っている。
 職員だけでなく高校生等も年少児に関わり、日常生活を営む中で互いに成長できるよう工夫していることは高く評価できる。

③	A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○

【コメント】

施設では、子どもが主体的に考えて動くことを重視している。子どもから意見が表出したことは反映するよう配慮しており、最近では土日の朝の過ごし方について要望が出ており、施設で検討した結果、要望を反映している事例がある。スマホゲームは土日の一定時間というルールを定めており、長時間への要望には職員が時間延長しない理由を説明している。
 公共交通機関は、職員と一緒に利用して料金表の見方等を教え、徐々に慣れるように支援している。子どもの力を信じて、子どもからの要望に真摯に向き合い検討し反映している施設の姿勢は特長と言える。

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

現在は男女を分けて、幼児から高校生まで縦割りのホーム編成である。各ホームでは、子どもたちの遊びの場面に必ず職員がいるようにしており、本人の様子を見ながらコミュニケーションの取り方などをフォローしている。ボランティアによる学習支援の他、本人の希望でバイオリンやピアノを習っている子どもがおり、他の子どもが自分も習いたいという声をあげた時には、「続けることができるか」等問いかけ、習い事についてのマナーやルールを説明して対応している。子どものニーズによっては応えられない場合もあるが、職員が真剣に検討していることを伝え、理由を説明している。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○

【コメント】

職員は施設が催す招待行事の際に、子どもたちに挨拶の仕方を教えたり、プレゼントをもらった時にはお礼を言うように指導している。また、施設での生活を通して、お願いしたことは全て叶うと思っている子どもが多く、職員がその都度説明している。電話対応については、電話を掛ける前に職員と一緒に話し方を練習して掛けるよう支援している。

職員は不登校が続く子どもと十分に話し合い、短時間でも登校できると一緒に喜び、本人の気持ちに寄り添いながら支援していることが見てとれる。

生活するうえでの守るべき決まりや約束は、児童会で話し合うことが多く、子どもと一緒に考えて作っていくよう配慮している。

高校生からスマートフォン所持を認めており、利用時間は6時半から22時半までとルールを定め、それ以降は職員が預かり保管している。また、毎月の児童会で、職員がSNSの使い方を説明しトラブルに巻き込まれないよう安全な使い方を伝えている。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	○

【コメント】

施設では、栄養士が献立を立てており、季節の旬の食材を利用し、週2回は魚を入れたメニューがある他、子どもたちがリクエストを書いて入れるボックスがあり、リクエストがある献立は反映して提供している。また、子どもの誕生日はその日に本人のリクエストに応じており、人気の企画となっている。

2つの女子ホームは、コロナ感染予防対策として、これまで全員が食堂で食事を取っていたが、現在は、食堂とクッキング室に分かれて食事している。コロナ禍前はホームクッキングを行っており、栄養士が見守る中、処遇の職員と子どもたちが一緒に調理していた。コロナ収束後は再開できればと考えている。

食事中は、栄養士も子どもの嗜好を把握するために食事の様子を見ており、これまでに残食はなく子どもたちが食事に満足していることが窺える。クラブ活動等で遅い食事を取る子どもには個食にならないよう職員が付き添い、適温で提供している。土日の食材買い出しは子どもたちに声掛けし、一緒に出掛けており、食事が子どもにとって楽しい時間であり、食事の時間が満足できるようさまざま工夫を行っていることは、特筆すべき点である。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

職員は、毎朝子どもが自分で考えて衣服を選択して着替えるよう支援している。また、衣服をたたみ、整理整頓することも習慣として身に付くように援助している。

各ホームでは、中学生からは洗濯やアイロンがけは自身で行うよう指導しており、ほころびは職員が繕ってサポートしている。

年齢に応じて、好みの洗濯柔軟剤を使う子どもは小遣いで購入し使用しており、職員は子どもの自己表現のひとつとして見守っている。

更に、施設では、子どもの衣服は本人の好みを重視し、年2回商業施設に職員が付き添い、自身で購入するよう支援している。

(4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【コメント】

施設内は中舎制であり、男子ホームと女子ホームを階を分けて、出入口も別にして整備している。小規模のグループを目指し、ホームは5、6人で編成しており、中学生以上は個室となるよう改装している。男子ホームでは、個室で過ごすことが苦手な小学生を高校生が同室で生活してサポートしている様子が窺える。女子ホームでは、2人部屋の小学生が室内に段ボールで小さな個室を作っており、子どもたちが創意工夫して楽しみながら個人の空間を確保していることが見てとれる。

掃除当番等を子どもが分担し、食堂やリビングは整理整頓した快適な環境となっている他、破損個所がある場合は営繕係に報告するルールがあり、急を要する時には直接施設長に修繕を依頼している。

また、分園型小規模グループケア「マキホーム」を新築し、男子ホームとして養育・支援を行っており、月に1度、月の目標を発表する機会に、子どもたちが全員集っている。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

【コメント】

毎朝、職員は子どもへの視診や検温を行い健康状態を把握している。定期的な受診が必要な子どもには、受診時に職員が同行し、医師の所見を職員間で共有している。服薬については、食後に薬の容器を確認することで、飲み忘れが無いよう努めている。

職員間での勉強会は、ユニットでのミーティング時に行っているが、十分に時間が取れていないことを自覚している。医師との連携を深め、医療や健康について学ぶ機会を増やすことを期待したい。

(6) 性に関する教育

①	A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

性教育についてはスキルアップ委員会で担当し、マニュアルを作成し研修を行っている。委員会において、必ず説明する項目や、子どもにどのように伝えるかを検討している。ホームごとに男女に分かれ、さらに小学生と中高生に分けて、それぞれプログラムに基づき指導している。

正しい性教育のために委員会で職員のスキルアップを目指しており、マニュアルやプログラムが充実しているのは、特筆すべき点である。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもを安全を図る配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

子どもの暴力等行動上の問題については、職員が声掛けする他、必要に応じてクールダウンの時間や場所を確保したり、職員が交代する等対処しており、本人が落ち着いてから改めて話をする時間を取っている。また、児童相談所等、外部との連携も行っている。

施設では、子どもの暴力の背景には本人の自己肯定感の低さがあると考えており、職員間で連携し、情報を共有して解決へ向けての対応策を検討し取り組んでいる。

子どもの行動上の問題について、要因を分析し検討して支援に繋げている施設の姿勢は特筆すべき点である。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	○

【コメント】

子ども間のいじめや暴力等の問題では、その都度職員が指導等を行っており、子ども間で諍いや揉めている場合は職員が仲介し、聞き取りを行って子どもが自ら解決策を考えるよう導いている。
 年2回、子どもへの聞き取り、人権擁護に関するアンケートを行い、職員の目に触れない場面での状況把握に努めている。子どもからはいじめが減っているとの回答が寄せられているが、職員は子どもの動静把握はまだ不十分と考えており、検討の余地があるとして取り組んでいる。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

施設では、別棟に心理療法室を確保し、心理的ケアが必要な子どもには、心理担当職員が定期的にセラピーを行っている。
 心理担当職員は、生活の中で心理的ケアが必要な重要な場合は該当するホームを訪問して対応する共に、緊急でない場合は支援者会議で年間予定に従い、アセスメントの見直しを行い、一人ひとりの支援に努めていることがわかる。更に、必要に応じ児童相談所の児童心理司と連携している。
 職員に対しては、心理担当職員や主任がスーパーバイズを行っており、職員が子どもを支援するにあたり必要とする心理面の知識を習得できる体制を備えている点は、高く評価できる。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

学習支援については、学習チェック表を用いて子どもの学習状況や理解度を把握している。大学生等のボランティアによる学習支援も充実している。子どもたちの学習の効率が上がるよう、子どもたちはホールに集合しボランティアや職員が指導している。

常に、学習ドリルは新しいものを準備し、子どもが興味を持って学ぶことができるよう配慮している。また、学校との連絡を密にして子どもの学習支援に役立っている。能力があるのに伸び悩んでいた子どもが、つまずきのポイントを改善した結果、学力が著しく伸びた事例があり、学習支援の充実ぶりが窺える。

子どもの学習への意欲を高めるために場所やツール等を常に検討し、最適な状況を整えるよう努めていることは特筆すべき点である。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

進路については、本人の希望を聞き取り、選択に必要な資料を渡して話し合っている。本人の希望する進路が明確な時は、保護者を施設に招き職員と本人、保護者で話し合う他、保護者が施設に出向くことが困難な場合は、職員が保護者先を尋ねて近況を説明する等配慮している。

大学や専門学校の進学については、措置延長制度を活用し施設から通学して卒業し、就職している事例がある。また、就職し生活が安定してから退園という支援継続の例もあり、子どもの最善の利益を最優先に支援していることは特に優れた点といえる。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>

【コメント】

職場実習や職場体験は通学している学校が行っており、アルバイトは学校で禁止していない限りは施設でも許可している。
 日中にアルバイトして定時制高校に通う子どもについては、アルバイトを通して社会経験を積み、実社会で不都合なく生活していけるように、時折職員がアドバイスしている。
 また、職場実習時に社会の仕組みやルールを学ぶ中で感じた不満や不安について、職員がアドバイスしている。
 資格取得については学校が推奨しており、施設も奨励している。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに関する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="radio"/>

【コメント】

家庭支援専門相談員は、毎年支援センターのケースワーカーに新規情報の提供を依頼しており、取得した情報を基に支援センターと相談しながら家族支援について検討している。
 施設では毎年家族会を開いており、子どもの近況を伝えると共に家族の意向を聞き取り、交流方法を再検討している。
 特別な事由で入所している子どもの家族以外は、職員が家族からの相談を受けることもあり、傾聴し繋がりを断つことのないようにフォローしている。
 面会、外出、一時帰宅できる子どもがいる半面、それができない子どももいるため、夏休みに帰宅できない子どもたちに、希望を聞き取り反映している。子供の外泊の回数が増加した場合は支援センターに相談し、外泊後、帰設後の様子を報告している。
 施設では、家庭支援専門相談員を中心に全職員が子どもの最善の利益に繋がるよう取り組み、家族との信頼関係づくりに努めていることは高く評価できる。

(11) 親子関係の再構築支援

① A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

保護者からの強い引き取りの要望があった時には、支援センターが退所決定するケースがあり、施設は引き取り後の課題をピックアップして、支援センターに伝えている。

保護者は引き取り前に支援センターにてペアレントトレーニングを受けており、施設は課題についての報告を得ている。

家庭支援専門相談員は、親子関係の再構築は支援センターと一緒に行うものと考え、情報共有に努め退所しても問題ないかを支援センター、児童養護施設、保護者の三者で話し合い、子どもが安心して退所できるよう努めている。子どもの権利擁護に努め常に最善の方法を検討し、取り組む施設の姿勢は特筆すべき点である。